

言葉と体験の相互作用を促す

言葉は体験に意味や秩序を与え、思考を整理して、更なる工夫改善を可能にします。一方、私たちは体験することによって言葉が表す内容を体感し、より深く理解することができます。

言葉と体験は互いの定着を補い合う関係にあるため、その相互作用を促すことが、子どもの学習をより確かなものにします。

校外学習の事前・事中・事後指導のポイントは、次に示す作用の促進にあります。

【体験が言葉に及ぼす作用】

① 的確・多様

見る、聞く、味わう、体で感じると

いった体験により、言葉による表現はよりの確になったり多様になったりします。

② 実感

子どもが、体験を抜きにやりとりする場合、どうしても言葉が上滑りになりがちです。

体験を通して自ら感じたことは、言葉によるより確かな理解・表現につながります。



【言葉が体験に及ぼす作用】

① 認識

言葉による認識は、子どもたちの体験の質を高めます。認識は、体験を単に「なすこと」に終わらせることなく、その過程において「考える」「感じる」「想像する」「表す」といった行為を生みます。言葉を発する、文字に表すなどの行為が、無自覚から自覚に向かわせ、次の体験を変容させるきっかけとなります。

② 共有

体験による気付きや発見、驚きや喜びなどの感情を言葉によって交流させることは、新たな体験を生むことにつながります。

声をかけよう

文筆家、クリエイティブディレクター 松浦弥太郎

言葉を交わさなくてもコミュニケーションがとれるから、いつのまにか声をかけ合うことが忘れられてしまいます。家族、近所のコミュニティ、職場。用があっても特段なくても、声をかけましょう。「元気?」「気持ちがいい天気!」「最近どうですか?」なんでもいいので、逐一、声をかけあう。これは「あなたのことをちゃんと気にしていますよ」というサインです。声をかけることで、相手が救われることもあるし、自分が救われることもあります。

出典:「しごとのきほん くらしのきほん 100」(マガジンハウス)

※ 挨拶プラス一言、今後も続けていきたいと考えています。